

地域について考える ワークショップを開催しました！



館山市では人口減少や高齢化など、地域を取り巻く状況を共有しながら、日頃感じている地域の現状や課題を話し合い、これからも暮らし続けられる地域の姿や必要な取組みについて、皆さんと一緒に考えるためのワークショップを開催しました。参加者のみなさまから貴重なご意見やアイデアをいただきましたのでその内容をお知らせします。

実施概要



日 時： 2026年7月12日(日)・18日(土)
14:00-16:30



場 所： 館山市コミュニティセンター



参加者： 23名



ワークショップの目的

地域の魅力や課題を再認識する

将来の地域の姿を参加者同士で考える

地域や自分たちができることを考える



当日の様子



ワークショップで見えてきたこと

2日間で6チーム23名の方にご参加いただき、6チームそれぞれ地域の特性や課題が表れていましたが、共通して次のような方向性が見えてきました。

- 歴史・自然（海）などの地域資源を活かしたまちづくり
- 医療・商業・交通などの充実による、幅広い世代の暮らしやすさの向上
- 地域コミュニティや人とのつながりの強化が必要
- 空家や空き地、空き店舗など既存ストックの有効活用
- 若者・移住者が定着する魅力（助成）づくりと広報

話し合ったワークショップのテーマ

- ① 身の回りで感じる地区の現状
- ② 現状を踏まえた課題
- ③ 目指す姿
- ④ 目指す姿のために必要なこと・自分たちでできること



共通して出たキーワード

地域資源の活用

- ・自然を活かす
- ・歴史や文化継承
- ・観光
- ・海産物
- ・農産物
- ・植物

公共交通の充実

- ・バスの利便性向上（本数・時間など）
- ・医療、商業へのアクセス強化
- ・脱車社会
- ・路線までの移動
- ・ライドシェア等

つながり・交流

- ・地域コミュニティの活性化
- ・世代間交流
- ・交流の場の確保
- ・関係人口ネットワークづくり

空家等の問題

- ・利活用方法検討（移住・起業促進）
- ・田畑の荒廃
- ・空家・空き店舗のマッチング

暮らしやすさ

- ・交流の場の確保
- ・子育て環境の充実
- ・高齢者にも優しい（移動支援）
- ・歩いて生活できる

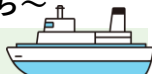
地域主体

- ・行政と民間の連携
- ・人材育成
- ・自ら担い手となる
- ・地域内での広報

歴史・文化を活かしたハーバータウン ～40-60代の大人の夢を叶えるまち～

7/12

身の回りで感じる地区の現状



- 港や海岸をうまく活用できていない（集客施設）
- 独居・高齢者の増加
- 昔は大都会だったが、現在は空家・空店舗が増加
- 車がないと暮らせず、バス路線も不便

現状を踏まえた課題と今後のまちづくりのキーワード

- 港をうまく使ったまちづくり
- 買い物など移動を支える交通環境の確保
- 那古寺など歴史や文化の学びを発信ができていない
- 門前町の復活

目指す姿のために必要なこと・自分たちでできること

- 関係人口ネットワークづくり
- 歴史の共有、教育で自治体について学ぶ
- 大人が活躍するロールモデルを作る（おためし移住や起業支援等）

ハマボウ（花）街道を作って稼いで 宝の宝庫を発信し作る地区『那古船形！』

7/12

身の回りで感じる地区の現状



- 高齢者多い、行き場所がない
- 商店の減少
- 地域コミュニティが弱くなっている
- 良いところ（文化財や植物）の発信が足りない

現状を踏まえた課題と今後のまちづくりのキーワード

- 歴史と文化を活かしたまちづくりができていない
- 地区別ではなく館山市で考える（方向性がバラバラ）
- 熱きリーダーの不在
- 海岸にハマボウ（植物）植え、観光スポット化

目指す姿のために必要なこと・自分たちでできること

- 植物を植える街道沿いの場所の確保
- 自分たちでできることを継続して行っていく
- 文化財や活躍している人等の、市のお宝一覧を作る

北条 子どもが安心してのびのび暮らせるまち

7/12

身の回りで感じる地区の現状



- 木陰やベンチがない
- 交通の便が悪い、歩道もなく道が狭い
- 稼げる職がない
- 車がないと買い物等が不便

現状を踏まえた課題と今後のまちづくりのキーワード

- 子どもが遊べる場所、楽しめる場所がない
- 子供好き人材の協力が必要
- 買い物する場所がない
- 観光でお金を稼ぐことが必要

目指す姿のために必要なこと・自分たちでできること

- 公園や歩道の整備
- 行政と民間の連携
- 海に特化した子供の遊び場（補助金活用）
- SNSや市のHPを活用したまちの広報

自然とテクノロジーが優しく寄りそう 誰もが歩いて豊かに暮らせるまち

7/12

身の回りで感じる地区の現状



- 商業・娯楽施設（スーパー、銭湯、スケボー）が少ない
- 近所付き合いが減った
- 駅前にお店が少ない（各施設が駅から遠い）
- 伝統的なお祭りや美味しい海産物がある

現状を踏まえた課題と今後のまちづくりのキーワード

- 交流の場が必要
- スーパー、カフェ、商業施設が近くに必要
- 各スポーツに対応した施設づくり
- 空家、空き地などの環境整備ができていない

目指す姿のために必要なこと・自分たちでできること

- 行政・民間でグリーンインフラへ投資する
- 市民が積極的に運営へ参加する、当事者意識
- 子育て介護にやさしい会社を増やす
- 街路樹や庭の緑などをみんなで育てる

豊かな風土 ～移住者と地元民の交流するまち～

7/18

身の回りで感じる地区の現状



- 若者が少ない、町内会に入らない人が多い
- 商店が少なく、地域の担い手もいない
- 空家が多いが、別荘も増えている
- 公共交通が少ない、車がないと生活できない

現状を踏まえた課題と今後のまちづくりのキーワード

- 地域資源を磨く
- 地区の協議体の活性化、西岬公民館の複合化
- 外から見た魅力を移住、起業につなげる
- 支え合いや助け合いの仕組みづくり（ライドシェア等）

目指す姿のために必要なこと・自分たちでできること

- 地域資源を磨き、地産地消（フードロス削減）
- コミュニティ作り、交流拠点の整備、ワークショップ
- 人材育成（主体的な人）する場所づくり
- ホテル等の施設と直販のコラボ

安心していくつになっても暮らせるまち

7/18

身の回りで感じる地区の現状



- 交通不便→商業、医療へのアクセスも悪い、送迎負担
- 交通弱者への対応（近所で助けあい移動支援実施中）
- 少子高齢化、住む人が少ない
- 空家、空き店舗、山林・耕作放棄の増加

現状を踏まえた課題と今後のまちづくりのキーワード

- スクールバスの活用、定期的な移動サービス
- 空家等を活用した交流拠点が必要（地域交流）
- 地元の人と移住者の交流拠点がいない
- 広報が読まれていない

目指す姿のために必要なこと・自分たちでできること

- 使いやすいサービス（福祉的ライドシェア、ぐるっとバス）
- 集落支援制度の活用
- 熱心に動く人、中心になってくれる人など人材育成
- 地域の中で自らが広報となる

